

## 論文内容の要約

論文名	Two-Year Results of Reduced-fluence Photodynamic Therapy Combined with Intravitreal Ranibizumab for Typical Age-related Macular Degeneration and Polypoidal Choroidal Vasculopathy 典型加齢黄斑変性とポリープ状脈絡膜血管症に対するランビズマブ硝子体内注射併用照射量半減光線力学療法の2年経過
氏名	芳田 裕作
<p>【目的】 典型加齢黄斑変性（AMD）およびポリープ状脈絡膜血管症（PCV）に対するランビズマブ硝子体内注射（IVR）併用照射量半減光線力学療法（RF-PDT）の2年経過を報告する。</p> <p>【対象】 小数視力 0.7 未満の AMD 患者で初回治療として IVR 併用 RF-PDT を受け2年間経過を追えた 23 例 24 眼である。</p> <p>【方法】 1 か月毎に 3 回 IVR を施行し RF-PDT は初回 IVR3 日後に施行した。その後 1、2 か月毎に診察、視力検査、光干渉断層計を行い、術後 1 年までは 3 か月毎にフルオレセイン・インドシアニンググリーン蛍光眼底造影検査を行った。必要に応じて IVR、RF-PDT の追加を行い、視力、中心窩網膜厚（CFT）、追加治療、合併症の有無を検討した。PCV では術後のポリープの状態についても検討した。なお、視力は log MAR 換算で 0.3 以上の変化を改善もしくは悪化とした。</p> <p>【結果】 典型 AMD は 24 眼中 10 眼であり、術後 2 年で 7 眼（70%）で視力が維持できたが、術前 logMAR 視力 0.59、術後 2 年で 0.47 と有意な視力改善は得られなかった。CFT は術前 510.1 <math>\mu</math> m、術後 3 か月で 290.9 <math>\mu</math> m と有意に改善し術後 2 年まで改善した状態を維持できた。平均治療回数は IVR が 7.2 回、RF-PDT が 1.8 回であった。PCV は 24 眼中 14 眼で視力維持できた症例は術後 2 年で 13 眼（92.9%）であった。術前 logMAR 視力は 0.58、術後 3 か月で 0.45、また CFT は術前 485.1 <math>\mu</math> m、術後 3 か月で 204.0 <math>\mu</math> m とそれぞれ有意に改善し術後 2 年まで改善した状態を維持できた。術後 2 年でポリープが消失した症例は 11 眼（78.6%）であった。平均治療回数は IVR が 6.4 回、RF-PDT が 1.8 回であった。典型 AMD、PCV とともに重篤な合併症は認めなかった。</p> <p>【結論】 IVR 併用 RF-PDT の 2 年経過では典型 AMD は視力維持にとどまったが PCV では視力改善が得られた。</p>	